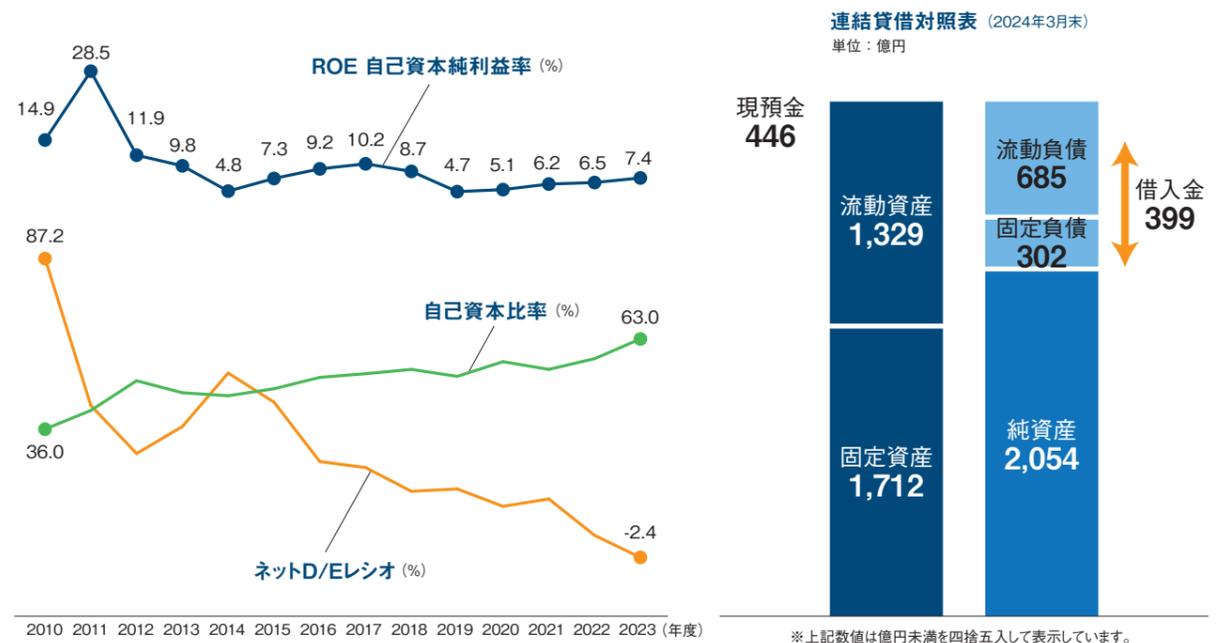


財務戦略

財務方針

当社は健全な財務体質を維持しつつ、自己資本に対する収益性を高めること、そのために、売上・利益の持続的な拡大を図ることを目指しています。健全な財務体質を維持するため、自己資本比率は50%以上を維持することと同時に、資本効率の面では自己資本に対する収益率(ROE)10%以上という目標を掲げています。電動化の大変革期を勝ち抜き、車体システムサプライヤー(Tier0.5)へと進化することを企図しています。財務体質の健全性の面では、2024年度もR&I社の信用格付A-を維持しています。

財務基盤を強化するとともに、投資家の皆様にもご満足いただける株主還元を実施してまいります。また、中長期的なポートフォリオの検討にあたっては、ROICをはじめとしたKPIを活用することにより、投資効率の最大化と経営資源分配の最適化を実現し、企業価値の最大化を目指してまいります。



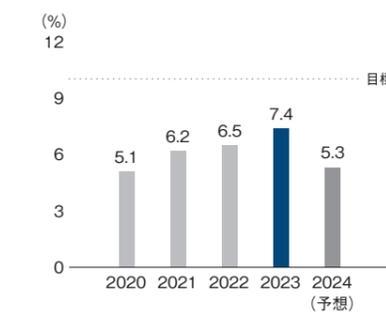
資本コストと収益性

企業価値向上を図るため、資本コストを上回る収益性が必要です。当社は、ROEおよびROICを重視しながら、投資効率の向上に努めてきました。半導体不足などからの回復による得意先の増産などに伴い増収増益となり、各目標指標は回復してきております。

2031年3月期中期計画目標に向けて、販売拡大による数量増の進展と積極的な投資の推進、新たな製品への領域拡大による1台当たり単価の増加により、売上高を拡大させ利益を確保し、各種指標を高めてまいります。

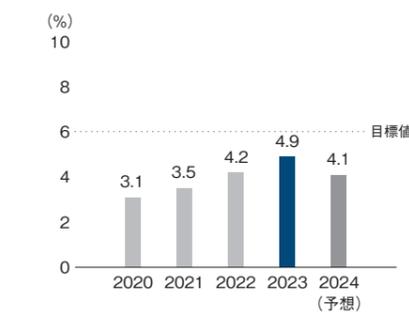
ROE(自己資本純利益率)

目標 ▶ 10%



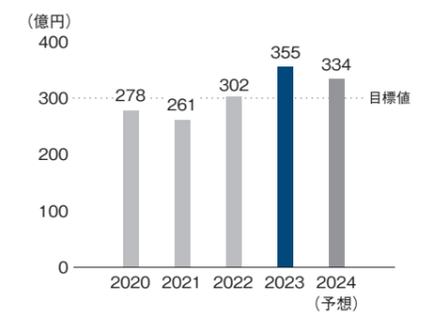
ROIC(投下資本純利益率)

目標 ▶ 6%



EBITDA(利払・税償却前営業利益)

目標 ▶ 300億円



研究開発費と設備投資

システムサプライヤーへの進化、電動化時代への対応のため、積極的な研究開発と開発投資を行っています。その施策の一つである検証ライン構築により、既存の車体部品からの事業領域拡大を目指した受注活動を展開しております。また、DXに基づいた最先端テクノロジーを導入し、生産効率を極めた新工場

を建設中です。

100年に一度の大変革期を乗り切るべく、今度も開発力強化のための研究開発・電動化への積極的な事業投資を続けてまいります。

株主還元

当社は成長投資のための健全な財務体質維持を図りつつ、利益成長に応じ、長期安定的な配当を行うことを経営課題としてまいりました。2025年3月期には1株当たり7円増配し74円と連続15期増配となる予定です。

株主還元指標として、2023年6月にDOE(株主資本配当率)を導入したほか、2024年6月には、配当性向を30%以上とする方針を新たに定めました。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的とし、安定的・継続的な株主還元を実施し、2031年3月期にDOE3.0%、そして配当性向30%以上を目指します。新たな成長分野への投資が、株主にとっての利益にかなうと判断した場合は、積極的に資金を投資に振り向けていきます。

